



JTAG Technologies Product CD

CD22 April 2015

「日本語版インストールガイド」

-Node-locked License Installation (USB & Greenkey)-

REV	日付	内容
1.0	2015年8月26日	初版
1.1	2015年10月29日	CD22_SP1a 対応



システムに挑戦する

アンドールシステムサポート株式会社

こちらの説明書は、CD-ROM を用いて JTAG テクノロジーズ社製 “JTAG テスト/ISP システム” (ノードロックライセンス) を PC に初めてインストールする場合のインストール手順について記述したものです。

この説明書では、以下の要項にて説明させていただきます。

1. 用意して頂くもの
2. ソフトウェアツール・インストール手順
3. ハードウェアドライバ・インストール手順
4. ハードウェアの接続
5. バウンダリスキャン・コントローラの登録

インストールについてのご質問等については、弊社宛にご連絡下さいますようお願い申し上げます。

尚、本説明書は、2015 年 8 月時点での製品名称で説明させて頂いております。

製品名称は納品時期によって若干異なりますので、予めご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

1. 用意して頂くもの

○ホストコンピュータ(以下の条件を満たす必要があります)

- ・PC/AT 互換機
- ・OS: Windows XP、7、8
- ・CD-ROM ドライブ
- ・ハードディスク空き容量: 1GB 以上
- ・メモリ: 2GB (3GB 以上推奨)
- ・USB ポート、またはプリンタポート(ハードウェア・キー用)
- ・USB ポートx1、もしくは LAN ポートx1、もしくは Firewire ポートx1 (バウンダリスキャン・コントローラ用)

○ソフトウェア(CD-ROM により供給されます)

- ・Boundary-scan test and in-system programming software CD22 April 2015

【注記】 ライセンスファイルはインストール時にハードディスクの任意の保存場所から選択して下さい。

(ライセンスファイルは、デフォルト設定で以下のフォルダにインストールされます。)

C:\¥Bst32¥JTAG\lm

複数のシステムを御導入頂いている場合、各ライセンスは CD-ROM 内の各ハードウェア・キーのシリアル番号と同じフォルダ内に御座います。ご使用になります PC に接続するハードウェア・キーのシリアル番号に対応したライセンスファイルをご使用下さい。



USB Key



Green Key

○ハードウェア

- ・バウンダリスキャン・コントローラ(一式)
- ・ハードウェア・キー

2. ソフトウェアツール・インストール手順

ここでは、

OS : Windows 7 を使用

Cドライブ : JTAG アプリケーションをインストールする HDD

とした場合について、説明させていただきます。

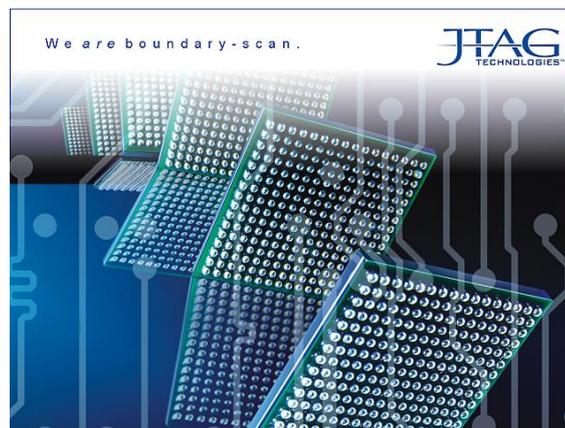
インストール作業中に、ユーザー アカウント制御ダイアログが表示された場合は、「はい」を選択してください。

(1) 下記の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットして下さい。

● Boundary-scan test and in-system programming software CD22 April 2015

(2) 自動的に以下の画面が表示されます。

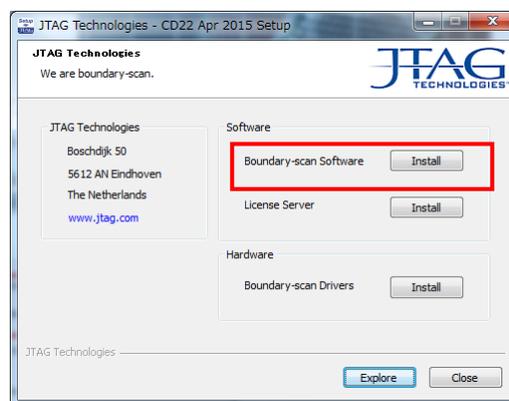
(こちらの画面は、数秒で切り替わります)



2.1 ソフトウェアのインストール

(1) 自動的に以下のソフトウェア/ハードウェアをインストールする画面に切り替わります。

項目「Software」の「Boundary-scan Software」の「Install」ボタンをクリックして下さい。



(2) ライセンスファイルを選択する画面が表示されます。

1) ライセンスファイルを用意する

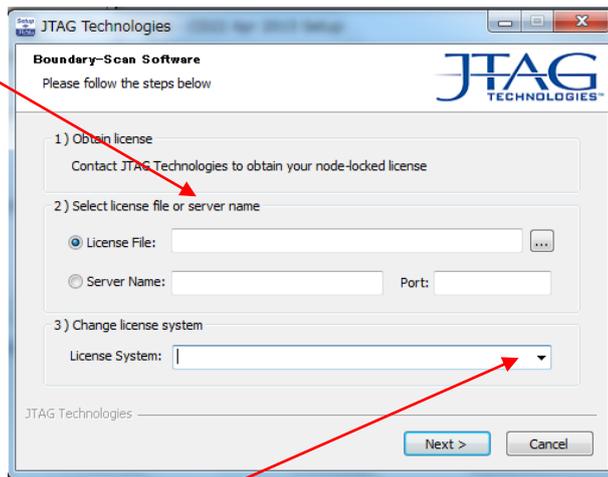
ライセンス・キーの番号と一致するライセンスファイルを用意してください。

ライセンスファイルは、弊社から CD-R またはメールで提供されます。

2) ライセンスファイルの選択

 ボタンをクリックしてライセンスファイルを選択して下さい。

- ① USB Key → jtag.lcs
- ② Green Key → License.dat



3) ライセンスシステムの形式を選択

『Change license system』からライセンスシステムの形式を選択し、「Next >」ボタンをクリックして下さい。

- ① USB Key → Sentinel RMS (AS)
- ② Green Key → FLEXIm (AF)

ライセンスファイルは、デフォルトで自動的に下記のフォルダへ保存されます。

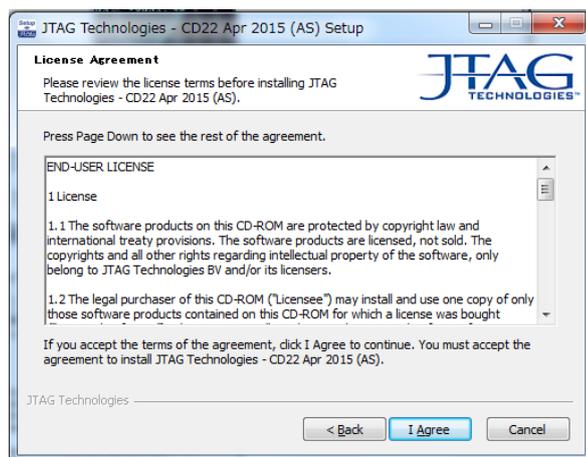
C:\¥Bst32¥JTAGIm

「Next」ボタンをクリックして下さい。

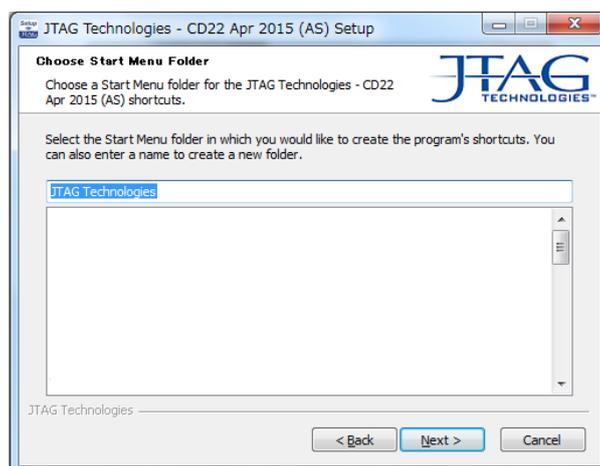
(3) 次の画面が表示されますので、「Next >」ボタンをクリックして下さい。



(4)ライセンスについての確認のメッセージが表示されます。内容を確認された上、「I Agree」ボタンをクリックして下さい。



(5)プログラムフォルダー名が表示されます。「Next>」ボタンをクリックして下さい。



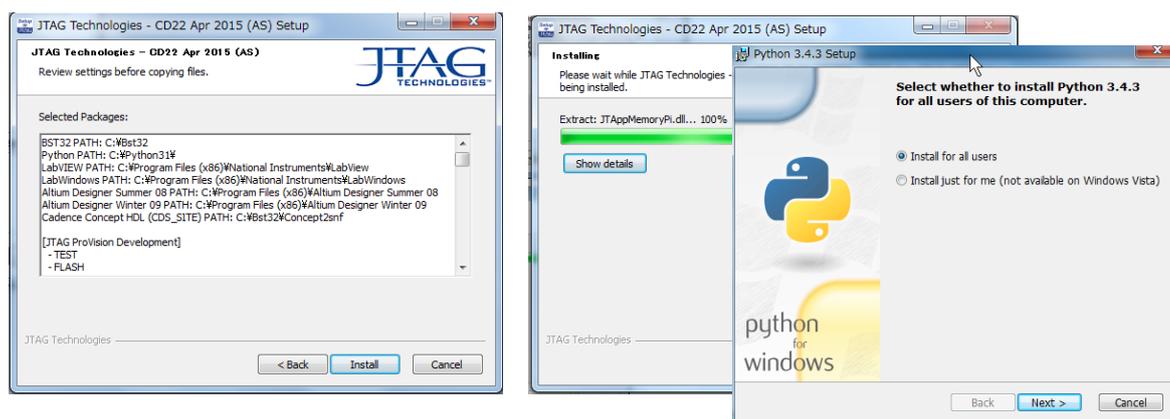
(6)別紙「インストールするソフトウェアの選択について」を参考にしてインストールするソフトウェアのチェックボックスにチェックを付けて「Next>」ボタンをクリックして下さい。また、インストールするソフトウェアのショートカットをデスクトップに作成する場合は、最下の「Create Desktop Icons」にチェックを付けてください。



- (7) 以下の画面は、インストール先のディレクトリ名を変更したい時に使用いたします。
デフォルトでは、「c:\Bst32」というフォルダにソフトウェアがインストールされます。
確認後、「Next>」ボタンをクリックして下さい。

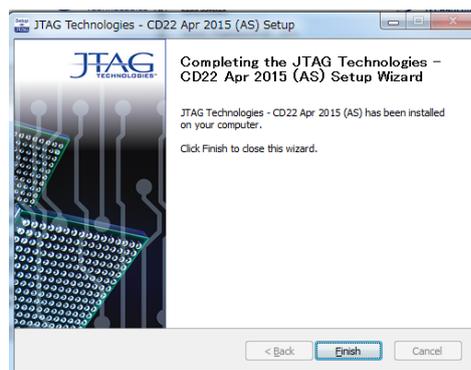


- (8) これまでに選択した内容、インストール先ディレクトリ等が表示されます。
確認後、「Install>」ボタンをクリックして下さい。インストールが開始されます。



- (9) 選択されたオプションにより表示される画面が変わります「Next>」ボタンをクリックしてください。
ProVision では Python を利用しているため Python インストーラーが途中で起動する場合があります。
この場合「Next>」ボタンを押して下さい。

- (10) 「Finish>」ボタンをクリックしてください。

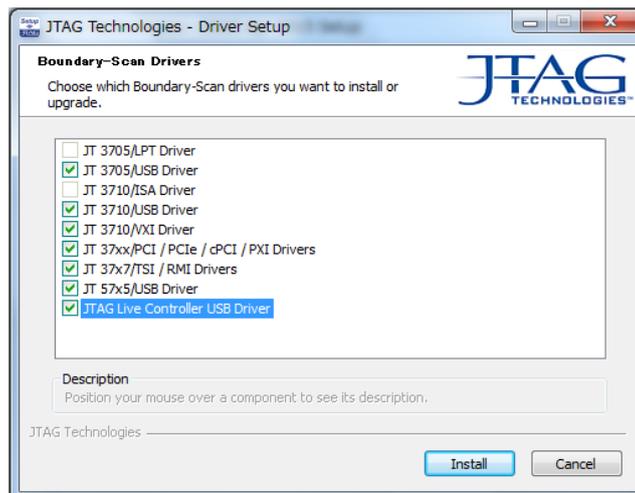


3. ハードウェアドライバのインストール手順

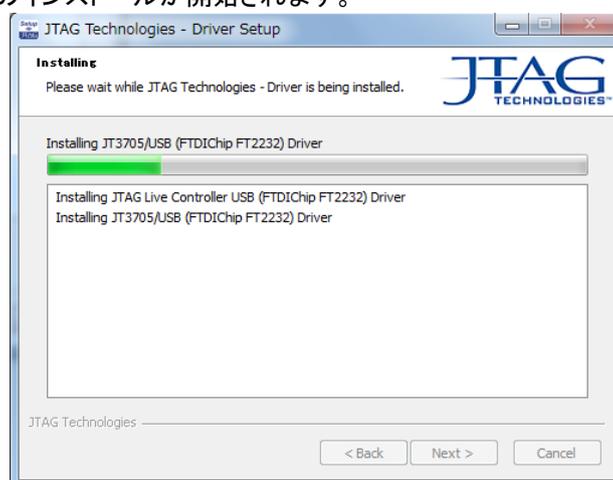
(1) 項目「Hardware」の「Boundary-scan Drivers」の「Install」をクリックして下さい。



(2) インストールするハードウェアドライバのチェックボックスにチェックを付けて、「Install」ボタンをクリックして下さい。



(3) ハードウェアのドライバのインストールが開始されます。



(4) インストールしたハードウェアのドライバを有効にするために「Reboot Now」にチェックを付け、「Finish」ボタンをクリックして下さい。Windows システムが再起動されます。



また、「I want to manually reboot later」をチェックし、「Finish」ボタンをクリックすると、手動での再起動が必要となります。

4. サービスパックのインストール

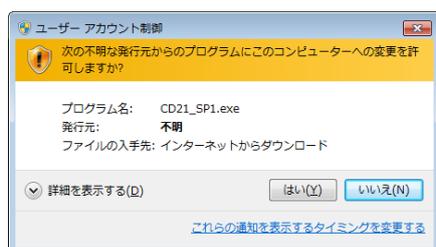
ここで示す作業を行う前に、「2. ソフトウェアツール・インストール手順」と「3. ハードウェアドライバのインストール手順」を先に実施してください。

(1)下記の CD-R を CD-ROM ドライブ にセットし、フォルダ「SP」からファイル「CD22_SP1a.exe」を実行してください。



(1)ユーザー アカウント制御のダイアログが開きます。

ボタンをクリックして下さい。



自動的に以下に示した画面が表示されます。

(こちらの画面は、数秒で切り替わります)



以下の画面に切り替わりましたら、「Update」ボタンをクリックして下さい。

自動的にソフトウェアがインストールされます。インストールが完了したら「Finish」ボタンをクリックして下さい。

年間保守契約のアップデートユーザー様向けには、Web サイトからサービスパックを提供しております。

サービスパック・ソフトウェアの入手

(1)以下 Web サイトにアクセスして下さい。

●<http://www.andor.jp/jtag/sp>

(2)Web サイト上から以下のファイルをダウンロードします。

●CD22_SP1a.zip

: サービスパック・ソフトウェア用の圧縮ファイル

(3)ダウンロードしたファイルを解凍します。

解凍されたファイル「CD22_SP1a.exe」を実行してください。

5. ハードウェアの接続と設定方法

5.1 JT3705/USB コントローラの場合

下図を参考にして、各ハードウェアを接続して下さい。

ハードウェア・キー



USB ポートへ



または



プリンタポートへ



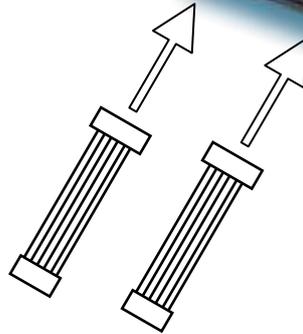
USB ケーブル



JT3705/USB

ホストコンピュータ (PC/AT 互換機)

注¹ 製品には付属していません。



TAPケーブル

5. 2 JT37x7/TSI (RMI) の場合

JT37x7/TSI コントローラを接続とホストコンピュータに Ethernet で接続する場合は USB または Firewire で接続する手順に加えて IP アドレスの設定が追加が必要です。

5. 2. 1 JT37x7/TSI を USB または Firewire で接続する場合

下図を参考にして、各ハードウェアを接続して下さい。

ハードウェア・キー

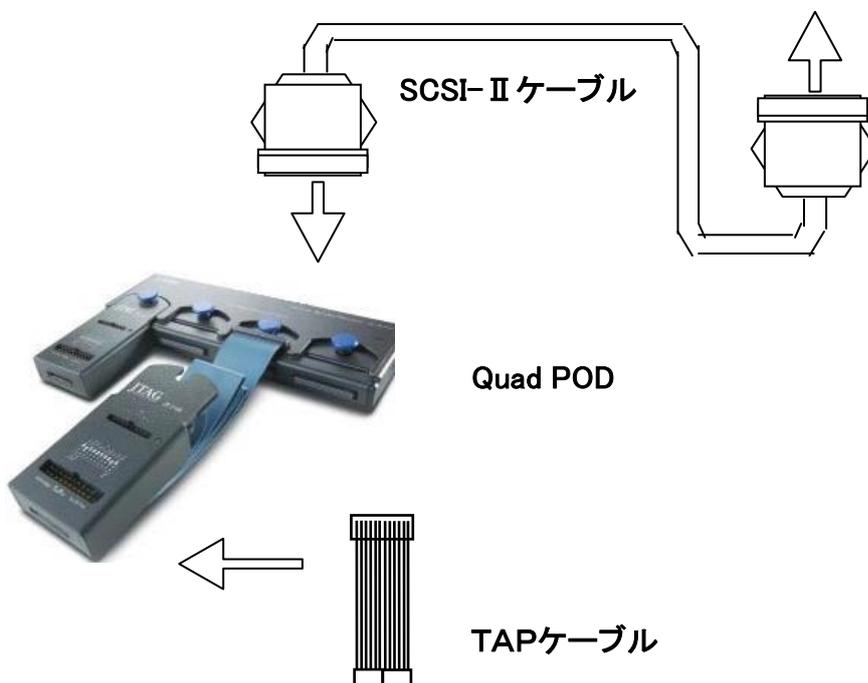
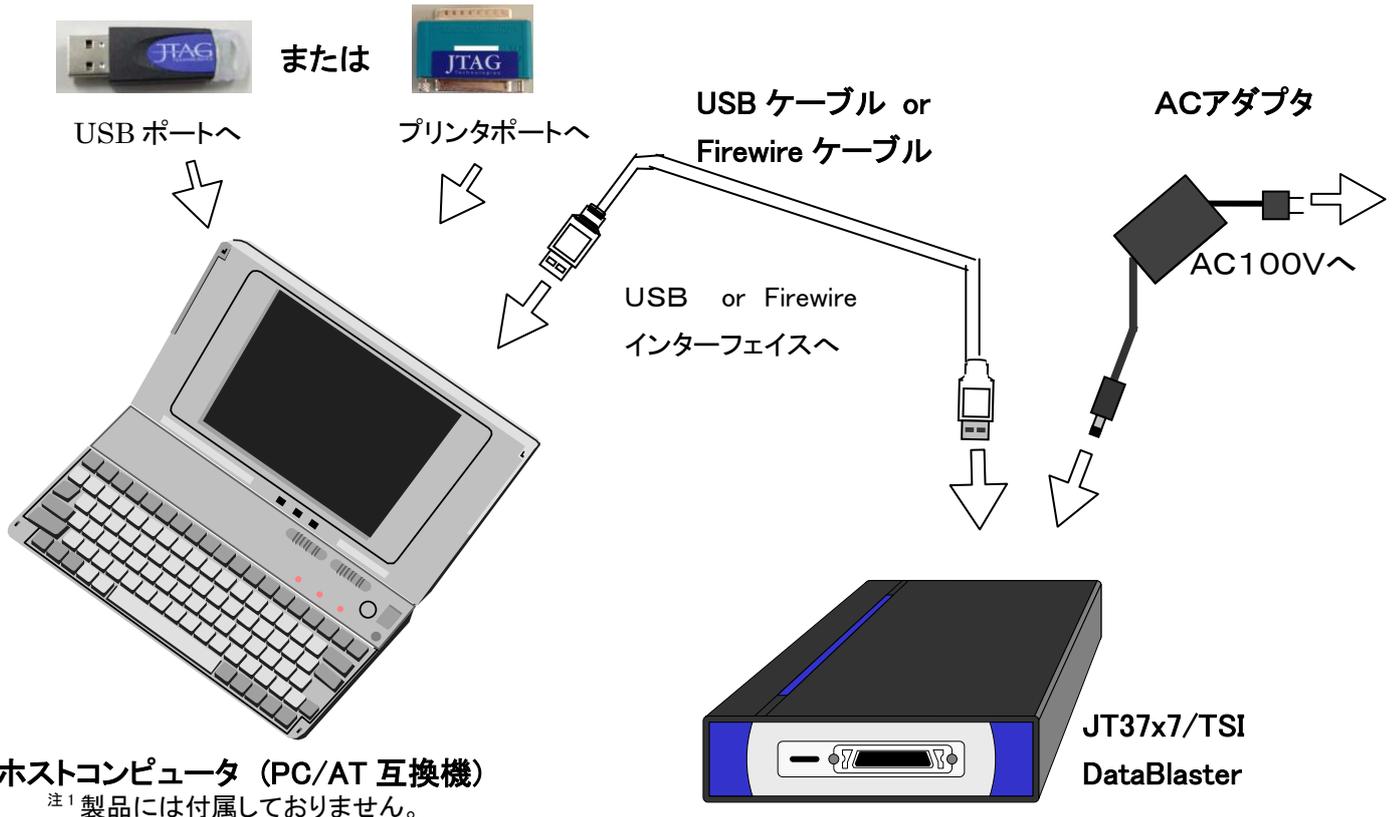


USB ポートへ

または

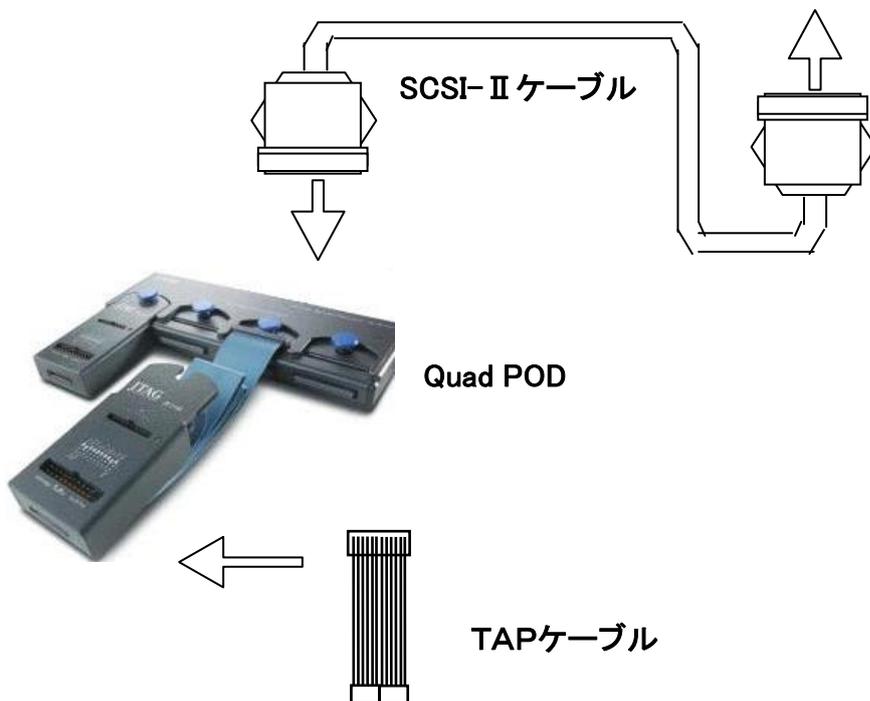
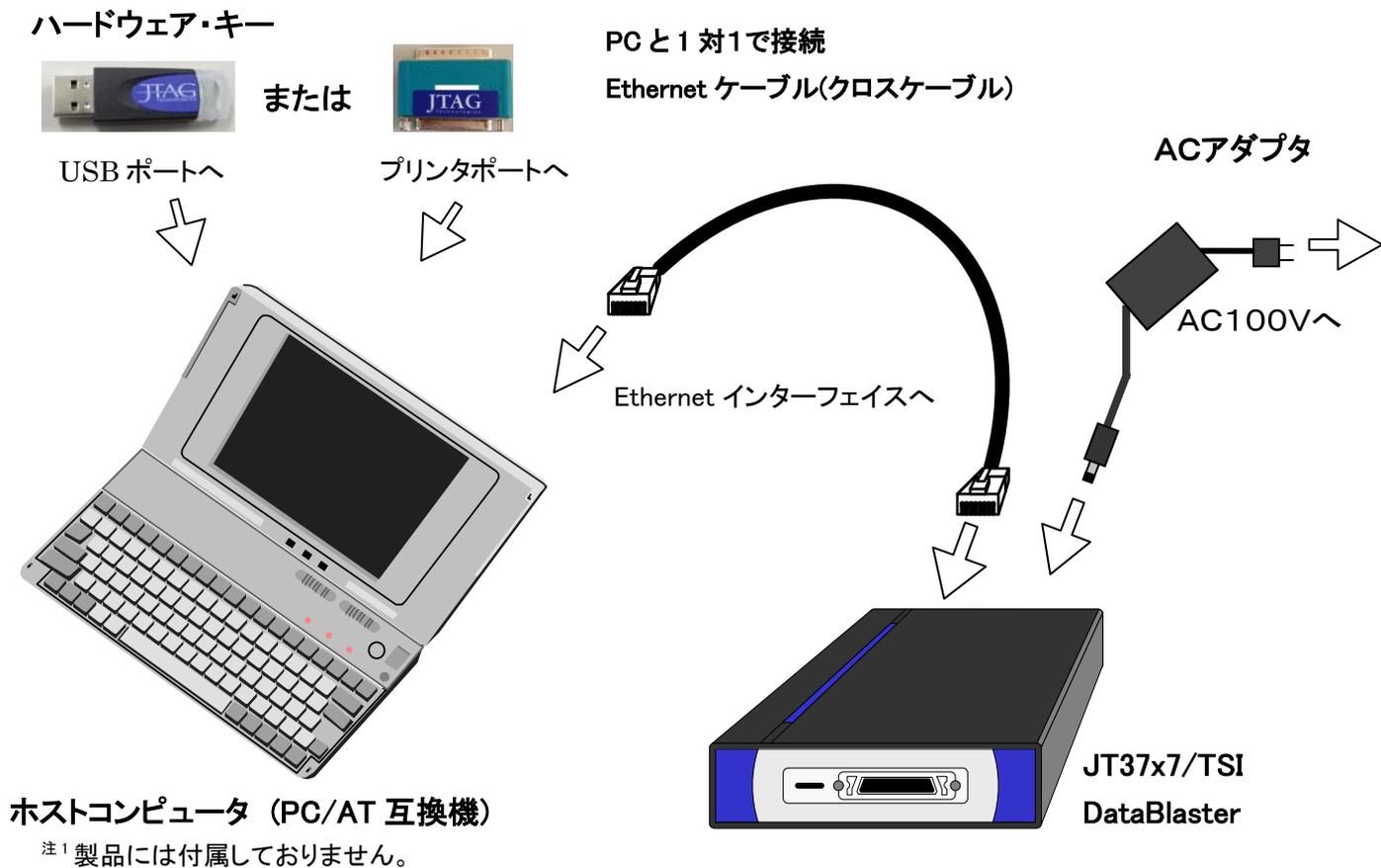


プリンタポートへ



5. 2. 2 JT37x7/TSI を Ethernet で接続する場合

PC と 1 対 1 で接続する場合の下図のように接続してください。Hub に接続して使用する場合は、Ethernet ケーブル(ストレートケーブル)をご利用ください。



5. 2. 3 IPアドレスの設定

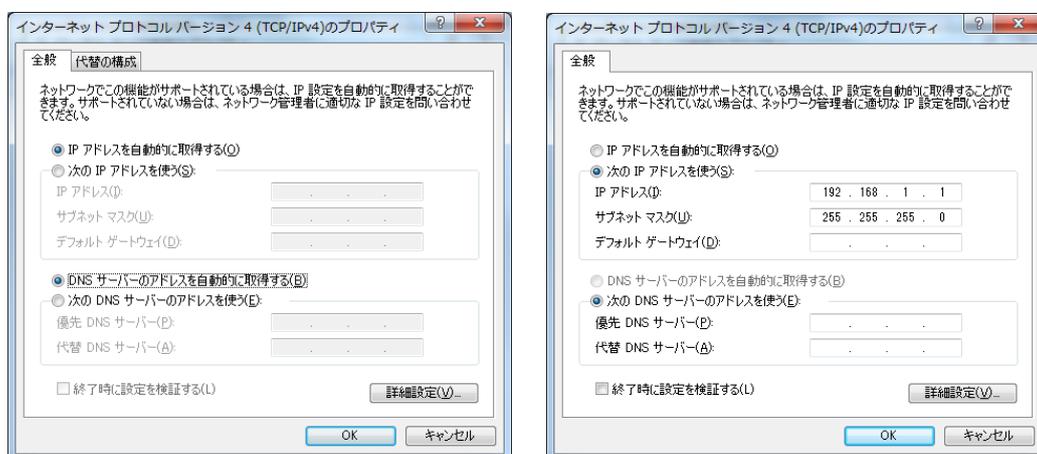
JT37X7/TSI コントローラを Ethernet 接続で使用する場合は、以下の設定が必要になります。

Ethernet で使用する場合は、コントローラと PC を1対1で接続する方法とコントローラを Hub に接続して使用する2通りの方法があります。

(1) PC と1対1で接続する場合

通常、LAN 環境で使用している PC は、以下の左の画面の様に IP アドレスを DHCP サーバから自動的に取得する設定になっています。

PC とコントローラを1対1で接続して使用する場合は、DHCP サーバから IP アドレスを取得できないため、以下の右の画面の様に IP アドレス、サブネットマスクを手動で設定する必要があります。



上記の設定画面は、以下の手順で開くことが出来ます。

Windows 7 の場合:

- ① 「スタート」→「コントロールパネル」とクリックします。
- ② 表示方法: カテゴリから「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
- ③ 「アダプターの設定の変更」をクリックします。
- ④ 「ネットワーク接続」とクリックします。
- ⑤ 「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックし、プロパティをクリックすると、「ローカルエリア接続のプロパティ」のウィンドウが開きます。タブを「ネットワーク」にし、リストの中から「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」をクリックで選択した後、「プロパティ」のボタンをクリックします。

Windows XP の場合:

「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」とクリックします。

「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックし、プロパティをクリックすると、「ローカルエリア接続のプロパティ」のウィンドウが開きます。タブを「全般」にし、リストの中から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックで選択した後、「プロパティ」のボタンをクリックします。

(2) Hub に接続して使用する場合

JT37X7/TSI コントローラの IP アドレスのデフォルト値は、『192.168.1.20』になります。

ネットワーク上の PC とコントローラの IP アドレスが重複している場合は、コントローラの IP アドレスを他の PC で使用していないアドレスに変更する必要があります。

変更手順は、

- ① USB、Firewire、クロスケーブルの何れかにて PC とコントローラを1対1で接続します。
- ② PC の IP アドレス、サブネットマスクを手動で設定します。(上記(1)の設定をご参照ください。) 但し、IP アドレス変更後は、元の設定に変更する必要があります。(上記の画面左の設定)
- ③ DOS プロンプトより下記のコマンドを実行します。

```
TCU.EXE -a<interface><nr>[-wi<ip-address>][wd<0|1>]
```

●-a<interface><nr>

PC と接続したインタフェースの種類とモジュール番号(通常は 0)を入力します。

●[-wi<ip-address>]

変更する IP アドレスを入力します。

●[wd<0|1>]

DHCP サーバを使用するか否かの設定をします。必ず”0”を設定してください。

0: OFF

1: ON **←この設定は使用しないでください。**

※ON の設定では、DHCP サーバが適当な IP アドレスを設定してしまうため、必ず OFF に設定するようにしてください。

例:

1. TCU -aUSB0 -wi192.168.1.21 -wd0
2. TCU -aFW0 -wi192.168.1.21 -wd0
3. TCU -aETH192.168.1.20 -wi192.168.1.21 -wd0

1. は USB 接続で IP アドレスを 192.168.1.21 に設定
2. は Firewire 接続で IP アドレスを 192.168.1.21 に設定
3. は Ethernet 接続で IP アドレスを 192.168.1.20 から 192.168.1.21 に設定

※IP アドレス変更後は、新しい設定が反映させる為、一度コントローラの電源を入れ直して下さい。

- ④ 使用になるJTAGツールの各 GUI で変更後の IP アドレスを設定します。設定方法は、項目6. で後述します。

6. バウンダリスキャン・コントローラの設定

ここでは、既に作成された JTAG ProVision のプロジェクトから、接続したバウンダリスキャン・コントローラに合わせて設定を変更する方法について説明いたします。

※JTAG ProVision の操作方法の詳細につきましては、別紙の日本語マニュアルをご参照ください。

また、弊社では、お客様のご要望に応じて JTAG ProVision 実践セミナーを開催いたします。

6.1 バウンダリスキャン・コントローラの種類と接続方式の選択

(1) JTAG ProVision のメニュー「Instrument」から「Properties」をクリックして下さい。

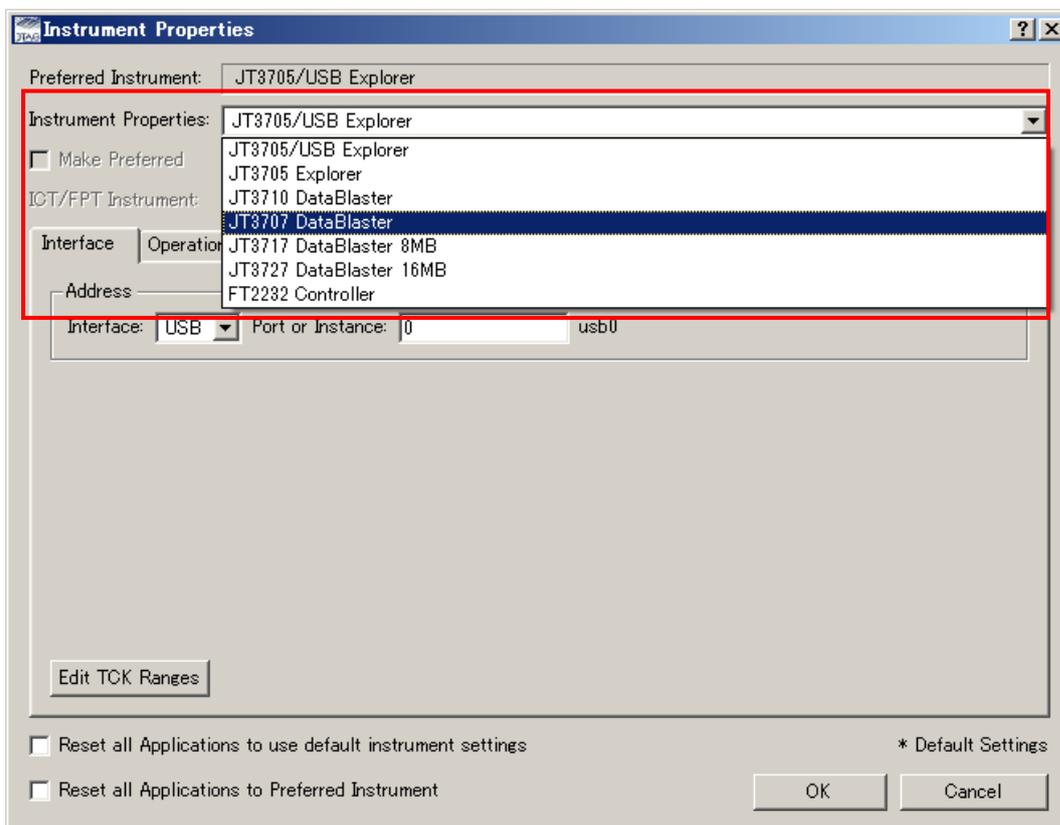
いずれかを選択した後、マウスを右クリックして表示されるメニューより、「Test Infrastructure」、もしくは「Execute」を選択してください。



(2) 次の画面が表示されます。この画面はコントローラの設定画面となります。

『Instrument:』の、欄からホストコンピュータ（PC/AT 互換機）に接続された、バウンダリスキャン・コントローラの型番を選択してください。

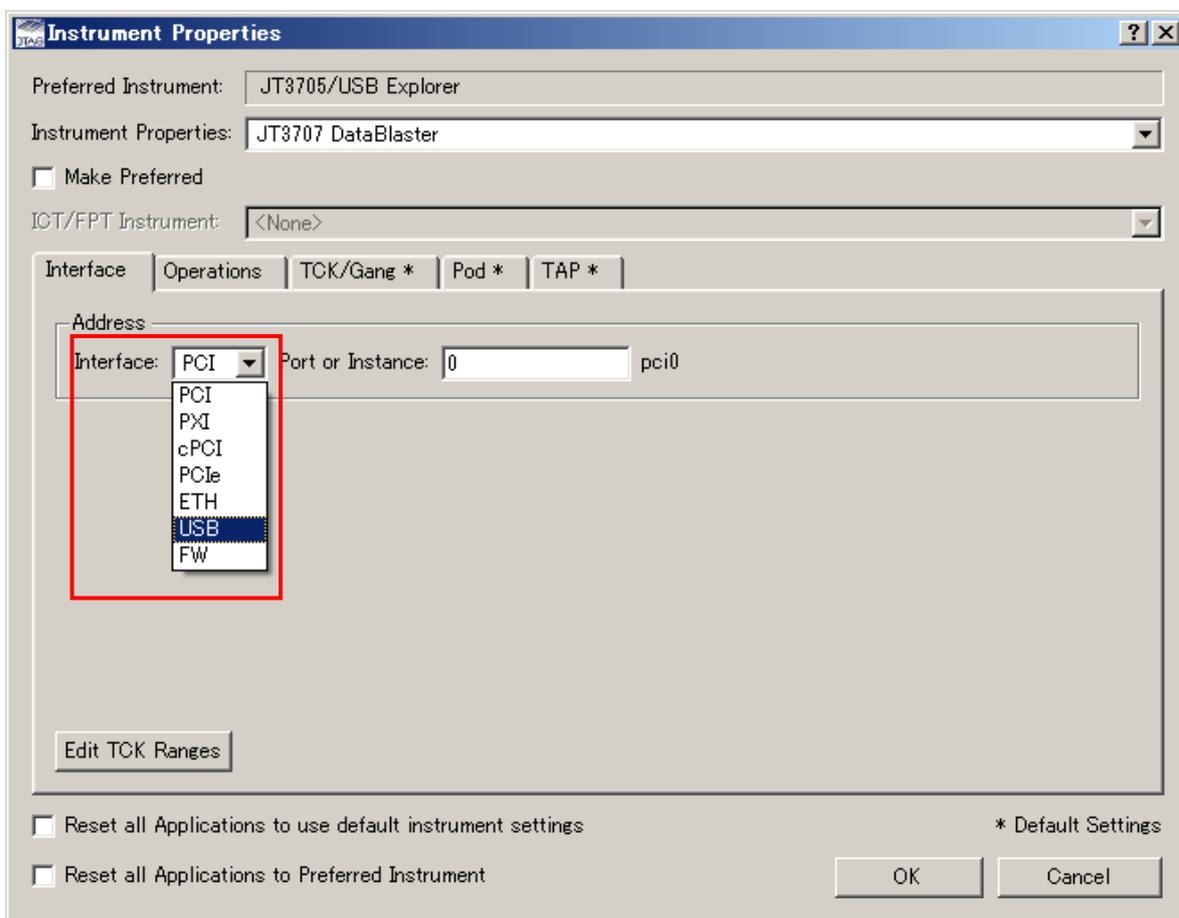
※コントローラの接続方式は、この段階では無視してください。



次に、コントローラとの接続方法を選択します。

(3) コントローラとの接続方法を選択します。

『Interface』の欄から、ホストコンピュータ（PC/AT 互換機）に接続された、
パウンダリスキャン・コントローラとの接続方式を選んでください。



JT3705/USB と FT2232 の場合：

USB しか選択できません。

JT3705 Explorer の場合：

LPT しか選択できません。

JT3710 DataBlaster の場合：

適切な接続方式を選択してください。

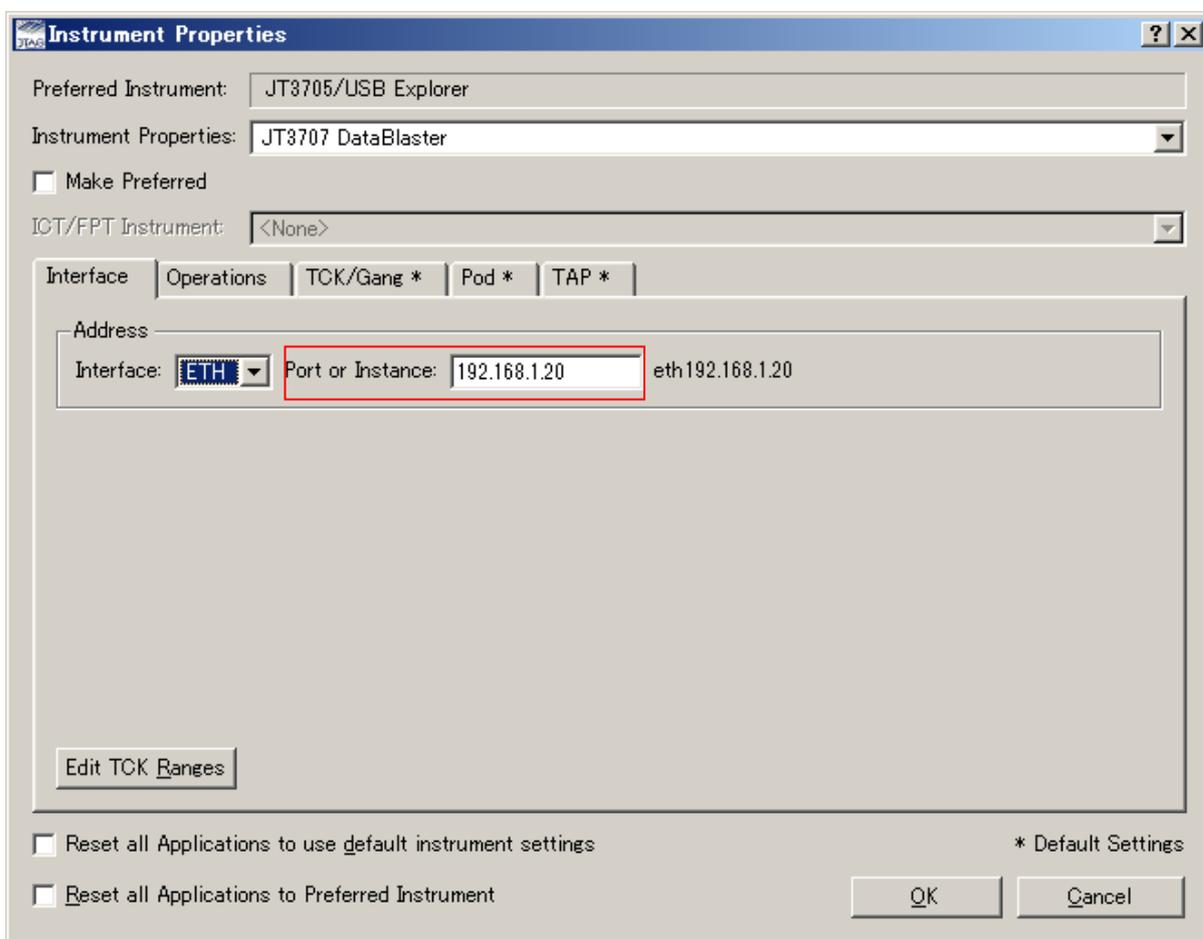
JT37x7 DataBlaster で Ethernet 接続以外の場合：

適切な接続方式を選択してください。

JT37x7 DataBlaster で Ethernet 接続する場合：

① 『Interface』欄から『ETH』を選択してください。

- ② 次の画面が表示されます。
- コントローラの IP アドレスを変更した場合は、Port of Instance 覧に、変更したアドレス値を入力してください。

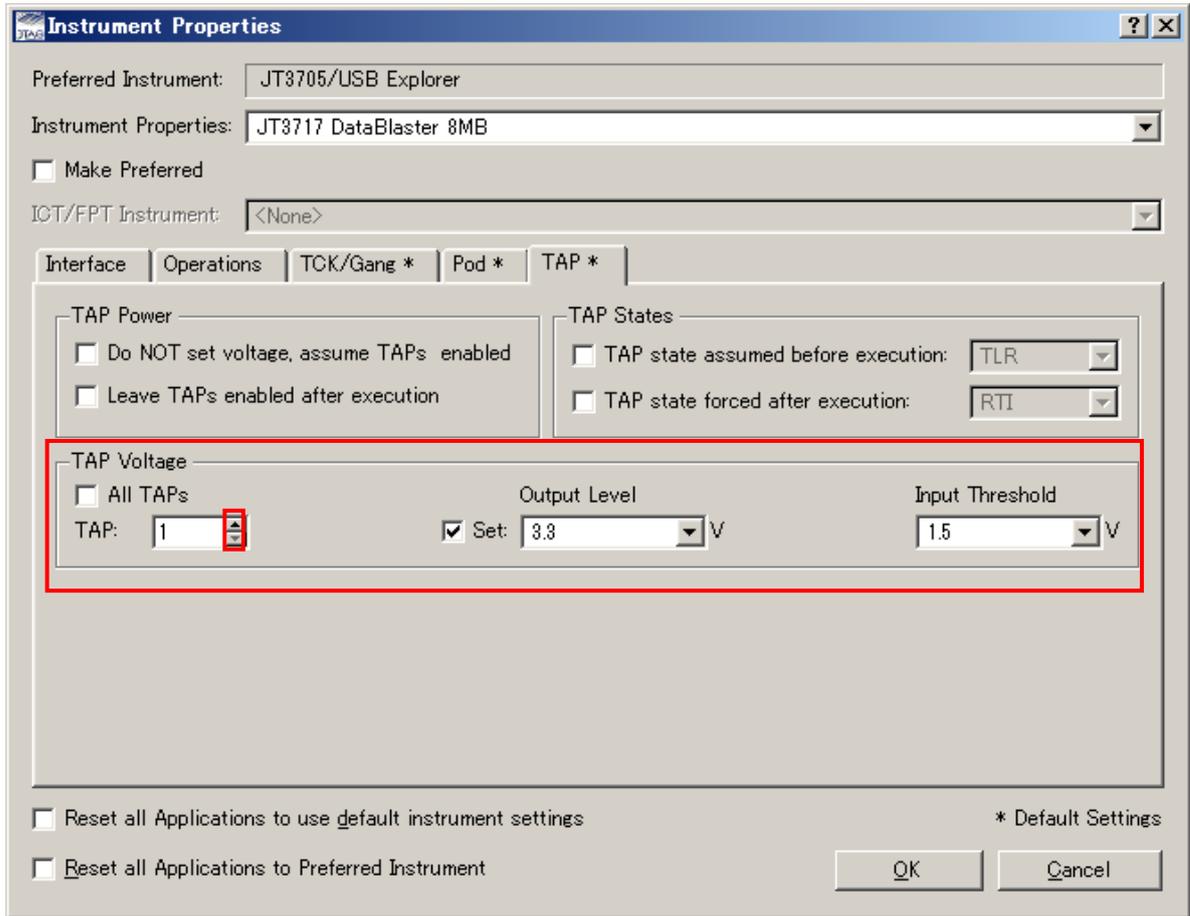


次に TAP 電圧の設定を行います。

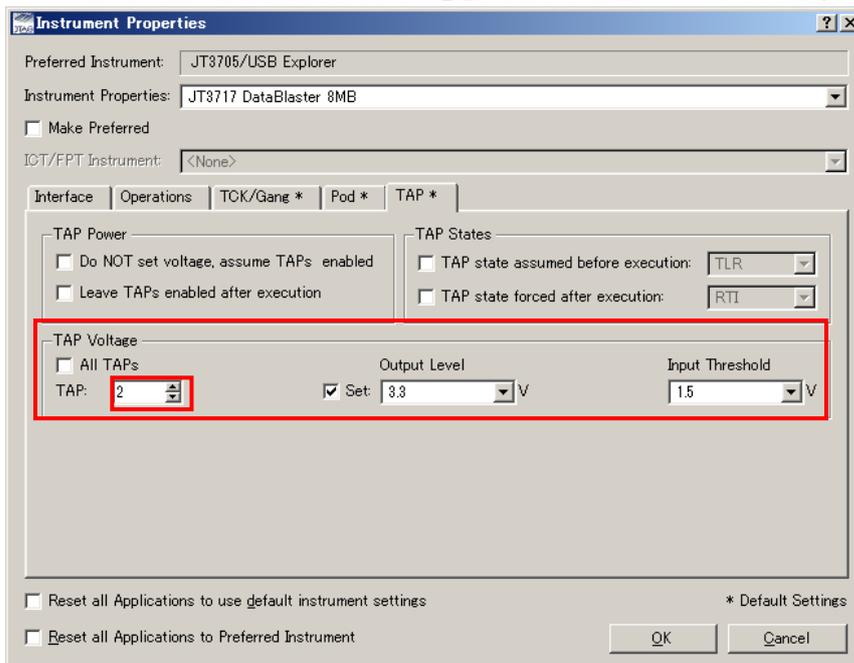
6.2 TAP (テストアクセスポート) 電圧の変更方法

TAP 電圧を変更する場合、「TAP」タブをクリックし、「TAP Voltage」欄の TAP の電圧を変更してください。

※All TAPs のチェックを外しておいてください。

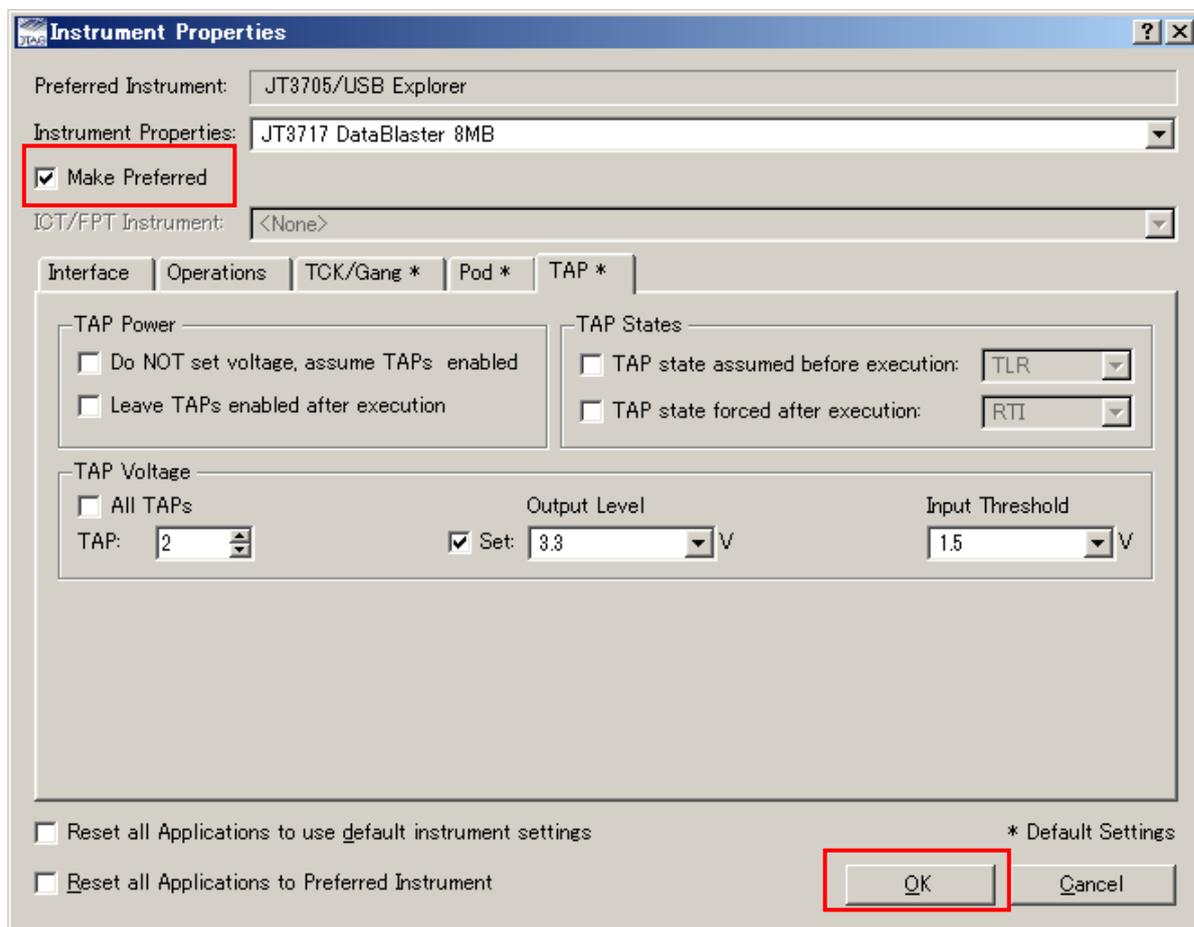


TAP チェンネルの切り替えボタン『▲』をクリックすると、TAP2 に切り替わります。



6.3 バウンダリスキャン・コントローラを選択と TAP 電圧の変更の反映

- ① 「**Make Preferred**」にチェックを付けて下さい。
- ② 「OK」ボタンを押して下さい。



以上